

『市民に開かれた身近な政治を実現したい!!』

だから、私は街頭に立ち続けます。



えのもと揚助のプロフィール (昭和59年6月2日生、34歳)
相模原市立相模が丘中卒、東海大学付属相模高校卒
平成19年：国際武道大学卒(中学・高校・大学は野球部に所属)
その後、神奈川県議会議長秘書を経て衆議院議員秘書
平成27年：県議会議員選挙に30歳で出馬、**17,264**票を獲得するも惜敗。

『選挙に行きたくなる政治』を目指す、という情熱ひとつで30歳で県議選に立候補しました。県議を6期務めた親父の地盤を避け、業界・団体・組合等の組織支援を一切求めず、シガラミ政治からの脱却を訴えました。親父の地盤を継がないとなれば、後援会も無く知人もごく少数。各方面の方から無謀な戦いだと言われられもしました。それでもこの地に新しい政治を造りたいと思う意思が変ることはありませんでした。

何の保障もないのに私を信じてついて来てくれた青年と二人で、自転車にスピーカーを唯一の武器として戦いに挑んだ前回の県議選。『選挙で政治を変えられる！行かなきゃ政治は変わらない。』だから『選挙に行きたくなる政治を目指す。』来る日も来る日も街頭で訴え続けました。市民皆様に政治を身近に感じていただくことが、政治の原点との思いからです。結果は次点。しかしながら、『徒手空拳』何も持たずに古い政治に挑戦した私たちを**17,264**人の市民(中央区)の皆さんが迎えて下さいました。この選挙戦を通して人の情けの尊さ・ありがたさを痛感いたしました。

あれから3年を経過した今も、『身近な政治を目指す』という気持ちは変わりません。憲法には『国会議員・地方議員を含む、すべての公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない』と明記されています。住民に最も身近であるはずの市議会議員が、市民との対話を疎かにし、一部の人や特定の団体の声に重きを置くようではいけません。常に住民の側に軸足を置いた、『開かれた身近な政治』を貫くことこそが、私たち次世代の使命であるとの思いを込め、これからも愚直に街頭に立ち続けます。

大型開発(調査結果)市が発表、**少子高齢化時代 費用は誰が負担するんですか!**

①コンベンション施設 ②JR横浜線連続立体交差事業 ③公共施設再編

上記の①②③以外にも、小田急線延伸事業やリニア関連事業、補給廠返還地利用計画など大型開発事業のオンパレードです。全ての事業計画を不必要とは言わないまでも、重要なことは極端な少子高齢化時代に突入している時代認識です。

市長は、本年3月の定例会議で『本市が将来にわたり(人や企業に選ばれる都市)となるよう取組む』と、施政方針演説を行いました。しかし、これまでの市の取り組みを見る限り、殆ど成果は見られません。『ポーノ相模大野の開発』や市が期待していた『圏央道の開通』、加えてこの度の大型開発計画など、ビックな開発計画を矢継ぎ早に繰り出し、市のポテンシャル(潜在力や可能性)を精一杯アピールして来ましたが、現実には、**大企業の相次ぐ撤退と人口増加の頭打ち**。

つまり『人や企業から選ばれる都市』とはなっていないのが実状です。相模原市が計画している開発事業は、どれもこれも**莫大な税金**が必要です。現在選挙権がない子供たちに大きなツケを残さないためにも、今後の市民に本当に必要な政策『**市民スタンダード**』を求めていかなければなりません。……次世代に責任の持てる政治に**挑戦**して参ります。